

尼崎社保協2016年度定期総会・記念講演

マイナンバーと社会保障

マイナンバー制度として、個人番号の通知が開始されて1年が経過しようとしています。マイナンバー制度は、当初からプライバシー侵害につながる可能性について指摘されてきましたが、それだけではありません。もともとは「社会保障と税の共通番号」であり、政府は、「骨太の方針2015」でも、個人番号の活用により「税・社会保険料徴収の適正化を進める」としています。

この度、尼崎社保協の総会記念講演では、大阪経済大学非常勤講師、自治体情報政策研究所の代表で「マイナンバーはこんなに怖い」の著者でもある黒田充氏をお招きして、ご講演いただきます。将来的に社会保障の給付制限の恐れもあるマイナンバー制度の危険性やしくみについて、一緒に学習したいと思います。

広く市民の方々にもご案内しております。是非、お誘い合わせの上、お気軽にご参加下さい。

日時 10月1日(土)
総会 午後1時30分～
記念講演 午後2時30分～
講師 大阪経済大学非常勤講師
自治体情報政策研究所代表
黒田 充氏



会場 尼崎市立すこやかプラザ多目的ホール

TEL 06-6418-3463 JR立花駅前 フェスタ立花南館5F

※参加費 無料

黒田充氏のご略歴 1958年 大阪市に生まれる、1980年 大阪府立大学工学部電気工学科を卒業し松原市役所に就職、1997年 松原市役所を退職し立命館大学大学院社会学研究科へ進学、2002年 自治体情報政策研究所を設立、2004年から大阪経済大学非常勤講師であり、現在は大阪自治体問題研究所の理事 兼 研究員(非常勤)、自治体情報政策研究所代表

尼崎社会保障推進協

連絡先 南武庫之荘11-12-1 医療生協組合活動部(担当:小林)
TEL 4962-4920

主な構成団体: 尼崎医療生協、兵庫保険医協会、野村医院、新日本婦人の会、生健会、年金者組合、民主商工会、尼崎障連協、尼崎労連、福保労、日本共産党など

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

379号

2016年8月25日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

第45回総会 市民公開講演会「アスベスト被害を考える」

アスベストは史上最悪の産業災害



大西一男先生(左)がアスベスト関連疾患の病態について、加藤正文氏(右)がクボタショック発覚時の状況や対応などについて、それぞれ詳しく解説した

尼崎支部は、7月30日、尼崎商工会議所で第45回総会を開催。総会議事では、2015年度の活動のまとめと2016年度活動方針を採択した。記念企画である市民公開講演会「アスベスト被害を考える」には会員、医療従事者、市民ら31人が参加した。

講演会では、神戸市灘区でアスベストなどの職業性呼吸器疾患の相談にも対応する大西内科クリニック院長の大西一男先生が、アスベスト関連疾患の病態について講演。石綿の種類や疾患別の石綿曝露濃度と潜伏期間、胸膜の構造、中皮腫や石綿肺がんの臨床所見など一般市民にもわかりやすく解説したほか、いくつかの症例を示して「数年前の写真と比較する」「胸水がたまった時点で中皮腫ではないことを確認しておく」といった診断の注意点についても言及した。

続いて、著書「死の棘(とげ)・アスベスト―作家はなぜ死んだのか」で「科学ジャーナリスト賞」を受賞した神戸新聞東京支社編集部長の加藤正文氏が、「史上最悪の産業災害・アスベスト禍」と題して講演。2005年6月に発覚したいわゆるクボタショックの衝撃、当時の工場内の状況、企業としてのクボタの対応などに触れ、アスベストが生産、消費、流通、廃棄の全局面で健康被害を引き起こす「複合型ストック(蓄積性がある)災害」であると指摘した。

参加者からは、「(自身の)病名がじん肺や胸膜肥厚など変わるのは何故か」「発病と発症はどう違うのか」「昭和55年頃に卓上に白い粉末が毎日あった」といった質問、意見が寄せられた。

保団連近畿ブロック公害環境担当者交流会

アスベスト問題はこれから本格化する



「石綿健康被害が社会保障として対応されるよう運動を」と訴える森裕之氏

保団連近畿ブロックは7月16日、大阪府保険医会館で公害環境担当者交流会と記念講演を開催。立命館大学政策科学部教授の森裕之氏が「アスベスト健康被害と科学の役割～医療の役割に着目して」と題し記念講演を行い、近畿各県から24人が集まった。兵庫協会から八木秀満尼崎支部長、森岡芳雄副理事長(環境・公害対策部長)が参加した。

森教授は、日本はこれまで外国から約1000万トンを入力したが、まだ約半分ほどは建材として使われたままであり、アスベスト被害は他国よりも20～30年は問題が起これ続けると指摘。現行のアスベスト健康被害予防の規制について、2013年に大気汚染防止法が改正され、飛散性建材(レベル1・2のアスベスト)は規制の対象となっているが、スレート等の非飛散性建材(レベル3のアスベスト)に関しては同法の対象となっていないと不備を問題視した。また、解体工事等の請負受注者は作業基準の順守が義務付けられているが、業者がアスベストはないと申請すれば届け出る必要がないなど、多くの欠陥があり、行政担当者の立ち入り調査を欺き、手抜き工事で経費を浮かせるやり方が横行していると注意を促した。

ヨーロッパではアスベストは量に関わりなくガンになる可能性があり、すべての種類のアスベストが危険だとみなされていること、アメリカでは不良工事を行った企業の社長が禁固刑を受けるなど日本と異なる実態についても紹介した。

最後に、アスベスト問題の解決には医療関係者による地道な診断・調査・発表の積み重ねが重要とし、石綿健康被害が社会保障として対応されるよう、運動を続ける必要があると強調した。

交流会では、八木支部長が、アスベスト被害からいのちと健康を守る尼崎の会の活動を紹介した。

「ストップ患者負担増」署名にご協力ください

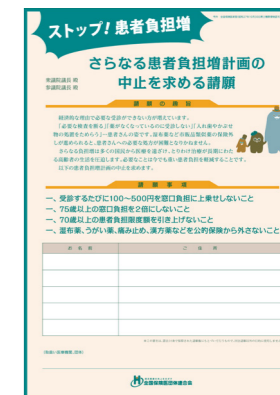
受付・待合室に署名用紙を設置し、患者さんに呼びかけてください

“保険で良い医療をひろげましょう”

協会では患者負担増計画を許さないために、「さらなる患者負担増計画の中止を求める請願」署名運動に取り組んでいます。

会員の先生方におかれましては、受付・待合室に署名用紙を設置のうえ、患者さんおよびそのご家族にも幅広く協力を呼びかけてください。まずはご自身・ご家族・職員の方々の署名を協会までご返送いただきますようお願いいたします。

用紙追加をご希望の場合は、協会事務局までご連絡ください。



支部会員の先生方へ

未入会のお知り合いの先生、 ご子弟に入会を是非おすすめください

保険医協会は県下で7,200人以上の医師・歯科医師が入会し、開業医が安心して診療に打ち込めるよう支えあう、開業医自身がつくる団体です。医学の進歩と医療技術の向上、変化する医療制度への対応、怪我や病気など万が一の時の備えなど、開業医の診療、経営、生活を全面的にサポートします。勤務医の先生も県下で約1,600人の先生方にご利用いただいております。

協会未入会のお知り合いの先生、ご子弟に是非、入会をおすすめください。



「サポート力」
いちばん身近に
いちばん親身に

第511回幹事会だより

7月22日(金) 於 武庫之荘「ゆうか」

- 尼崎支部の会員数
7/21 現在 医科 389人、歯科 153人
- 医療をめぐる情勢と運動対策
総会ほか当面の支部企画、医療情勢などについて意見交換した。
- 次回の幹事会
8月19日に「遠山」にて開催。